森林工芸館の あれ これ

no.41
8
2023

欠点材とされた「アテ」や
用途の限られた「エゾマツ」などから
独自の魅力を生み出してきたオケクラフト

これらの商品は 誕生当初より
秋岡・時松両氏のもと
置戸らしさの表われる材を
どのように活用するか
塾生や職員と進められた
商品開発の結果 誕生してきました

時代背景や材料供給の変化にともない
これまでにも
様々な商品が生まれてきた オケクラフトには
どのような「モノ」の歴史があるのでしょうか

あれこれ no.41では
オケクラフトの「モノ」の歴史についてご紹介します

オケクラフト「モノ」の歴史

- オケクラフトの移り変わり -

オケクラフト誕生の年、1983 年から
10 年ごとにどのような変化が見られるのか
その間の主となる変化についてまとめてみました

人と、木と、おけと

OKE CRAFT オケクラフト

OKE CRAFT 40th -SINCE 1983-

1983 年オケクラフト誕生 /「白い器」が代名詞

1983 年に誕生したオケクラフトは、マツ材を使用した白く美しい木肌から、「白い器」を代名詞に人気となりました。また豊富な森林資源を連想させるぽってりと丸く厚みがあり、木目が切れない縁のデザインが特徴とされました。これまでの木製食器のイメージを覆した「白い器」は、北海道の雄大な自然を連想させ、都会から見た北海道への憧れも相まって、東京で開催された初めての展示会は大成功をおさめました。

【まり鉢 -1984 年製作 -】　【椀・小椀 -1984 年製作 -】

1993 年頃～

オケクラフトの誕生当初から講師を務めた時松辰夫さんが懸念していた資源の枯渇。「想定していたよりも大きな径の木材が少なかった」と、当時の取材記事にも残るように、時松さんは主力であったエゾマツの次に向けた資源の確保に着手していきました。目をつけたのはパイオニアツリーとしても知られ、持続可能な資源であり、北海道特有の特徴を持つ白樺。1995 年に入塾された大崎さんは、時松さんとともに白樺の器作りに挑み、現在も製作される多くの作品を生み出しました。

【シラカバの器 -1996 年製作 -】

2003 年頃～

男性の入塾希望者が多い中、女性の作り手希望者や女性で独立する方が誕生してきたことも関係するのか、キッチンツールやカトラリー類の製作を行う作り手が増える。また、大きな板材からではなく、木っ端や端材の活用にも目が向けられはじめ、小物などの商品開発も進められる。

2013 年頃～

これまでの「オケクラフト」を連想させる白くぽってりとした「白い器」から、色の濃い樹種を使用したシャープなデザインへと変化してゆく。主力であったエゾマツなどの針葉樹から広葉樹へと主となる木材が変化し、また複数の樹種を貼り合わせた作品を製作する作り手も増え、種類が豊富に。

2023 年～

オケクラフト誕生から 40 年を迎え、時代背景や材料の供給にも変化が見られる。また、生活様式や好まれるデザインなども移り変わっていく。これからのオケクラフトがどのように変化していくのか。